

＜令和2年度 新学習指導要領の実施に向けた実践研究事業 甘楽中＞

学年・教科：1年・社会 単元名：世界の諸地域 アジア州
ねらい：インドの経済発展の理由を、既習内容や複数の資料から読み取った情報を関連付けて多面的・多角的に考察し表現することができる。

教師の発問、生徒の反応

学習の様子

1 本時のめあてをつかむ。

T：アジア州の学習の単元の課題は何ですか。 (14:15)

S：「アジア州は、なぜ、急速に経済発展したのだろうか。」です。

T：アジア州を追究する時の視点って何？

S：「人口」「労働賃金の安さ、人件費」などです。

T：インドも、今まで習った中国と東南アジアと同じように、経済発展の理由が「人口」などと関わりがあるか調べていきましょう。

T：【下の資料を提示】

- インドを含む経済発展が著しい BRICS に関わる資料
- Google や Microsoft の経営トップ（インド人）の資料

S：インドってすごいなあ



＜めあて＞

インドはなぜ急速に経済発展しているのか？

T：経済発展の理由を予想してみよう。

S：中国と同じで「人口が多い」ので「働き手がたくさん、ものもたくさん売れる」と思う。

S：東南アジアは「人件費が安く、物価も安かった」よね。

2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。

《(1)既習事項（人口・人件費）を基に考える》

T：今まで習った学習を生かして調べてみよう。中国、東南アジアでは何をを使って調べたかな？ (14:25)

S：「資料集」です。 (調べ学習開始)

T：さあ、調べられたかな？発表してみよう。

S：「『人口』との関わりから調べました。資料集の『P15』から、インドは世界第2位の人口ということが分かります。中国と同じように、たくさんの労働力、ものがたくさん売れる環境があります。

S：「『人件費』との関わりから調べました。資料集の『P28』から、インドは労働賃金が安く、モノの値段も安いことが分かります。東南アジアと同じように、モノを安く作れると思います。

《(2)インドならではの経済発展の理由を考える》 (14:35)

T：他に、インドならではの要因はないのかな。資料から見つけて、ワークシートにまとめてみよう。 (調べ学習開始)

3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。 (14:50)

T：さあ、調べられたかな？発表してみよう。

S：私は「教育」との関わりから調べました。資料1「英語能力」から、インドはレベルの高い数学の教育をしているから、優秀なプログラマーが多く育っていることが分かる。これが経済発展につながると考えました。

S：私は「時差（労働時間）」との関わりから調べました。この資料2から、アメリカとの時差が12時間ということが分かります。アメリカの会社がインドに支店を置けば、24時間体制で電話、メール対応ができます。また、英語が話せる人が多いのでアメリカの企業がインドに目をつけ、進出したのだと思います。

S：私は「インドの歴史」との関わりから調べました。この資料3から、ICT関連産業はカースト制と関係なく就ける職業ということが分かります。不幸な歴史を解決しながらインドは経済成長につながったのだと思います。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

T：さあ、まとめと振り返りをしてみましょう。(15:00)

＜まとめ＞

インドは、労働力が豊富で労働賃金が安い。
アメリカとの時差や数学、英語の能力の高さが生かされICT関連産業が発展したことが影響し、急速に経済発展している。

＜振り返り＞

インドでも人口の多さ、人件費の安さから経済発展していることが分かった。また、インドの国の特徴を生かしてICT関連産業が発展したことがおもしろいと思った。

